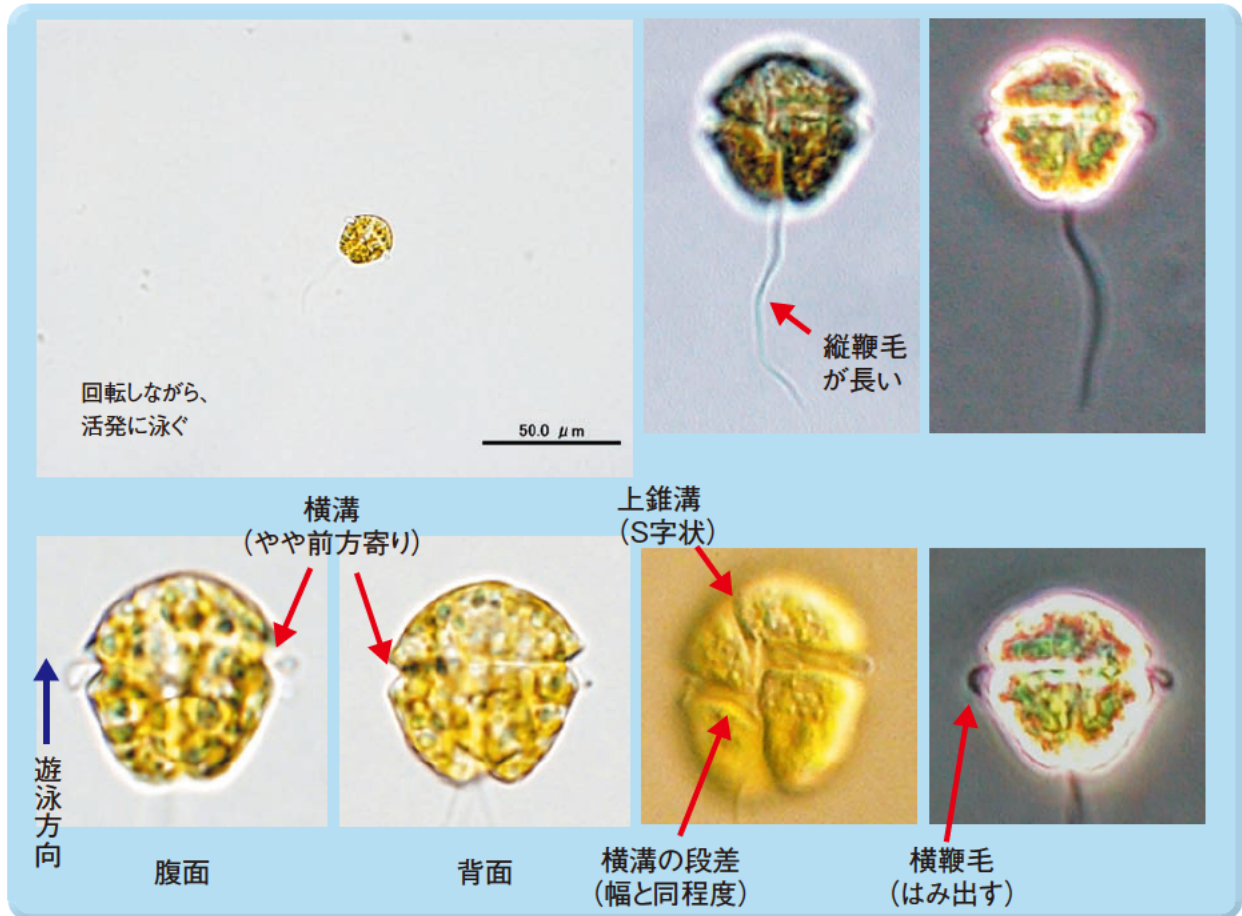


タカヤマ属 未同定種(渦鞭毛藻)

(*Takayama* sp.)

動画



大きさ 長さ13~22 μ m、幅12~17 μ m

形態 色は黄褐色。細胞は球形~楕円形で、背腹方向にわずかに扁平である。横溝は幅が広く、細胞の中央よりもやや前方を一周する。横溝の段差は、横溝の幅と同程度。前端部にはタカヤマ (*Takayama*) 属の特徴である蛇行形 (S字状) の上錐溝 (じょうすいこう) をもち、前端部がややコブ状に見える。横鞭毛が横溝からはみ出して見えることも特徴である。縦鞭毛は長く、細胞長の1.5~2倍に達する。

動き 回転しながら活発に泳ぐ。

分類 日本国内で発生している種は、もともとはギムノディニウム属 未同定種 (84年K型) (*Gymnodinium* sp. type '84K) と呼ばれ、その後ギムノディニウム プルケルム (*Gymnodinium pulchellum*)、タカヤマ プルケラ (*Takayama pulchella*) などと呼ばれてきたが、最近では複数の種が発生している可能性が報告され、分類は混乱している。

漁業への影響：タカヤマ属は、いずれの種も魚類に対して毒性があるとされていることから、魚類のへい死に注意が必要である。また、弱いながら麻痺性貝毒を産生すると報告されている種もある。

漁業被害：平成13年に五ヶ所湾、平成17年に的矢湾、平成21年に英虞湾、阿曾浦、などで赤潮が発生しているが、漁業被害はなかった。

発生海域：熊野灘沿岸

発生時期：8~9月頃 (夏季中心)